

経営体の概要

- ・所在地:鳥取県倉吉市
- ・経営体名:倉吉梨生産部 山本 昭二 氏
- ・栽培作物・作付面積:梨・70a(内ジョイント栽培40a)
- ・構成員数:夫婦2名(令和5年5月現在)

導入技術

・ロボット草刈機

ハスクバーナー・ゼノア(オートモア450X)

果樹園(梨)の下草刈り作業を自動で作業するロボット。園内に充電スポットを設置。自動で充電可能で稼働エリア内を自動運転する。

ロボット草刈機
オートモア450X



ジョイント栽培梨園で稼働



導入経緯

- 梨栽培は多労であり、作業の省力化が課題である。
- 園地内の草刈り作業は軽労働で安全性確保が重要。
- ジョイント栽培に取組みをさらに軽労働化を進めることを目指し、ロボット草刈機を県中部で最初に導入し、令和3年度から本格的に活用。

取組の特徴・効果

- ロボット草刈機を導入して、ジョイント栽培梨園内の除草作業に活用。
- 圃場内の樹の本数が多いジョイント栽培では樹や柱が多く、刈り払い機(手作業)の除草が多かったが、本機を導入することにより、ほぼすべてをロボット草刈り機が除草を行うことが出来る。
- 設置した充電スポットへ機械が自動に動くので、燃料切れの心配がなくなり、これにより昼夜を問わず作業が可能となった。
- 副次的に夜行性動物による被害が隣接園も含めてなくなった。
- 労働時間の削減(乗用モア 10日に1回+刈払い除草回数/年→ロボット草刈り機まかせ)
- 近年、近隣の農家でもロボット草刈機の導入が増加傾向。

⇒令和5年度までに鳥取県中部管内で10件導入※

(倉吉市5件、琴浦町3件、北栄町1件、湯梨浜町1件)
(※別機種含む)